



青春の火は燃ゆ

# 2018年主要日程 & 第1回全日本マスターズを検証

初夏のそよ風に新緑がそよぐ。5月は1日がメーデー、2日は八十八夜、3日が憲法記念日、4日はみどりの日、5日はこいのぼりが勢いよく泳ぐ端午の節句でこどもの日と、6日までがゴールデンウィーク。マスターズ会員のみなさんは有意義に過ごされただろうか。2018年度の日程が決まり、主要分を掲載。どの大会に出場するか、ターゲットを絞ってみては。

そして今回、マスターズ連合が誕生して開いた全日本選手権の第1回大会を検証した。

## 第1回大会プレビュー 日本最高 32、同タイ 4 と盛況

全国43都道府県から集まった男女447人の足音がトラックに心地よく響く。『串本節』をアレンジしたマーチに乗って。

先月発行の5月号で触れたが、全日本中高齢者(現・マスターズ)陸上競技選手権の第1回大会の模様を紹介したい。期日は1980(昭和55)年10月18、19日の両日。会場はマスターズ発祥の地・和歌山市の紀三井寺競技場だ。

第1日は好天に恵まれたが、最終日は雨が落ちるコンディションになった。見どころが多い中で最も注目されたのが1956(昭和31)年に、三段跳で16m48の世界新記録をマークした小掛照二さんの登場だ。当時、47歳。「三段跳を跳ぶのは20年ぶり。きょうは大雨洪水注意警報が出るんだって。ツイてないね。体重は増えて84kg。大丈夫かな。救急車の手配をよろしく」と言ってピットに立った。

昔取ったきねづかの跳躍は——。さすがにリズム感のあるトリプルジャンプで11m78と掲示板に。この後は「ステップへの移行が怖い。担架の要らないうちに」とパスを重ねたが、厚い人垣からのアンコールでラストの6回目の試技に挑んだ。が、本人が懸念して

いた通り、ステップでつぶれ「応援してくれたみなさんに申し訳ない」。

小掛さんが出場した45～49歳の部で優勝したのは大分・国東高校教諭の相部憲郎さん(46歳)。40歳代とは思われない跳躍で13m17を出した。「雲の上の人(小掛さん)に勝つなんて!」と大喜びだった。

地元和歌山での開催。「ここが一番、踏ん張らんと」と連合理事長の鴻池清司さん。当時は中学校の先生で43歳。大会運営の傍ら12m37を跳び、初代会長で1928年アムステルダム五輪金メダリストの織田幹雄さんが、1953(昭和28)年に出していた12m07の国内最高を上回った。ほかに走幅跳で6m09で2位、4×100mリレーは4走でトップと大活躍だった。

一方の連合副会長で住金化工副社長だった渡邊源太郎さん(63歳)も100m14秒0、200m28秒7、400m1分08秒2、4×100mリレー(1走)の4種目に出て、いずれも勝った。四冠だ。お見事の一言に尽きた。

## 手に汗の男女の100m 女子投てきも熱戦

小掛さんの三段跳を除き、満場注視のレースになったのが男子70～74歳・100mと、女子35～39歳・100mだ。男子は第1回西日本マスターズで

14秒5の同タイムで杉本正人さん(71歳・山口)が、一木譲さん(70歳・福岡)に勝った一節は4月号で述べた。1年前の第2回西日本マスターズは一木さんが69歳、杉本さんが70歳で年齢グループ別になり、対戦はなし。

2年越しの対決はまたも熱戦。ほぼ同時にゴールへ。タイムはまたも同タイムの15秒1だったが、一木さんに凱歌。お二人の今季のベストはともに14秒6と、年齢的には素晴らしい脚力だ。第1日にあった200mでは、31秒3の杉本さんが32秒5の一木さんに勝っている。和歌山シリーズは仲良く1勝1敗と星を分けた。

かたや女子の100mバトルは——。顔合わせは渡川(旧姓・林)孝子さん(37歳・徳島)と高橋(同・三嶋)恭代さん(35歳・和歌山)である。5月号の『1981年に「会報」を創刊』の項で少しだけ触れたが、1962(昭和37)年に400mで59秒5と初の1分切りを演じた渡川さんと、その7年後に56秒5の日本新を出した高橋さんの対戦。

9年ぶりに100mを走った高橋さんのベストは12秒6。1971(昭和46)年の和歌山国体で最終きょ火リレーの走者に選ばれたとあって、人気は抜群。両者の手に汗の接戦に拍手、また拍手。タイムはともに13秒4。着順判定で優勝は渡川さんに。惜しくも高橋さん

は2位だった。「学生のときのレースより緊張しました」と口をそろえた。

女子の35～39歳・砲丸投も元学生と実業団で活躍した中筋(旧姓・高松)道子さん(37歳・大阪)と、嘉成(同・今岡)俱子さん(39歳・福島)が投げ合い、日大OGの今岡さんが12m07をプッシュ。かつての日本選手権者で光華短大OGの中筋さんの11m81を抑えた。

日本最高記録32、同タイ4を生んだ第1回大会は大きな盛り上がりを見せて幕を閉じた。

## 2018年度の日程 9、10月に主要行事が集中

2018年度の日本マスターズ陸上競技会および各地区競技会などが、このほど決まった。ビッグイベントは9月、10月に集中している。

9月は5日から16日までスペインのマラガで第23回世界マスターズ陸上競技選手権大会があり、国内では9日に奈良市で2018国際ゴールドマスターズ奈良大会(十種競技・七種競技・五種競技)が開催される。22日から3日間、鳥取市で

は第39回全日本マスターズ陸上競技選手権大会がある。

10月になると7日の岩手・北上市で2018いわて北上マラソン兼全日本マスターズマラソン選手権を皮切りに、翌8日には2018全日本マスターズ競歩大会がある。13、14日には第29回全日本マスターズ混成競技選手権大会が神奈川・小田原で。26日には国際マスターズ競技大会開会式・記念講演会を行い、翌日の27日と28日は国際ゴールドマスターズ競技(陸上競技選手権)大会が開催される。

## ■ 競技日程(5月20日以降)

(○印は日本陸連登録が必要)

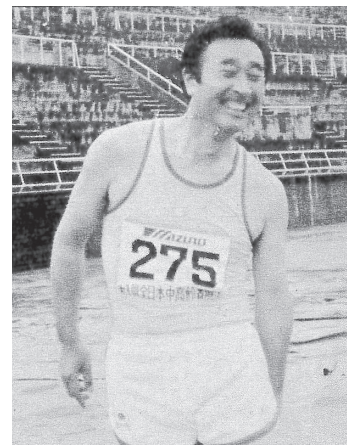
[国外・国内主要大会]		
▽6月17日	○第29回全日本マスターズ混成競技選手権(投てき五種・跳躍五種)	(神奈川・小田原市城山競技場)
▽9月5～16日	○第23回世界マスターズ陸上競技選手権	(スペイン・マラガ)
▽9月9日	2018国際ゴールドマスターズ奈良大会(プレ大会)	(奈良・ならでんフィールド)
▽9月22～24日	○第39回全日本マスターズ陸上競技選手権	(鳥取・コカ・コーラウエストパーク競技場)
▽10月7日	○2018いわて北上マラソン大会兼全日本マスターズマラソン選手権	(岩手・北上市)
▽10月8日	2018いわて北上ロードウォーク大会兼全日本マスターズ競歩	(岩手・北上市)
▽10月13、14日	○第29回全日本マスターズ混成競技選手権(十種競技・七種競技・五種競技)	(神奈川・小田原市城山競技場)
▽10月26日	国際マスターズ競技大会開会式・記念講演会	(奈良・奈良文化会館)
▽10月27、28日	国際ゴールドマスターズ競技(陸上競技選手権)大会	(奈良・ならでんフィールド)
▽11月3～6日	第30回ねんりんピック(日マ連合後援)	(富山)
▽11月18日	○第31回都道府県対抗全日本マスターズ駅伝・第7回全日本マスターズロードレース	(愛知・地球博記念公園)

## [各地域別大会]

▽5月20日	○第17回東海マスターズ選手権	(愛知・ウェーブスタジアム刈谷)
▽6月3日	○第20回関東ロード選手権	(東京・昭和公司)
▽6月9、10日	第10回北海道混成	(千葉・千歳市青葉公園)
▽6月10日	○第36回四国兼第37回香川選手権	(香川・高松市屋島レグザムフィールド)
▽6月17日	○第29回全日本混成(重量五種・跳躍五種)	(神奈川・小田原市城山)
▽6月24日	○第34回近畿選手権	(滋賀・甲賀市)
▽6月24日	第34回全山陰選手権	(島根・松江市)
▽7月14日	○第27回関東選手権	(東京・江戸川区)
▽7月14、15日	○第37回中国選手権	(山口・維新公園)
▽7月22日	○第35回九州兼第31回長崎選手権	(長崎・トランスコスモスタジアム長崎)
▽7月29日	○第35回東北選手権	(青森・青森県総合運動場)
▽8月5日	第33回北海道選手権	(北海道・旭川市花咲スポーツ公園)
▽9月9日	○第35回北陸選手権	(石川・県西部緑地公園)
▽9月9日	○第23回中国混成(五種)兼第20回中国記録会	(岡山・津山市)
▽9月30日	○第6回北海道ハイテク杯選手権マスターズの部	(北海道・札幌市厚別公園)
▽10月21日	○第19回東日本大会	(東京・八王子市)
▽12月2日	第5回東日本ロード選手権	(東京・昭和公司)
▽2019年3月21日	近畿駅伝	(滋賀・希望ヶ丘公園)

## [陸連登録が必要な地方競技会]

▽5月27日	第23回岐阜	(多治見運動公園)
▽6月3日	第36回新潟	(柏崎市)
▽6月10日	第35回大分	(日田市)
▽6月17日	第36回石川	(金沢市)
▽6月17日	第33回徳島	(鳴門大塚)
▽6月23日	第39回愛知	(ウェーブスタジアム刈谷)
▽6月24日	第38回岩手	(金ケ崎町)
▽7月1日	第33回鳥取	(米子市)
▽7月8日	第30回福井	(興越ふれあい公園)
▽7月15日	第29回長野	(松本平広城公園)
▽7月29日	第37回富山	(富山県五福公園)
▽7月29日	第70回愛知記録会	(ウェーブスタジアム刈谷)
▽8月4、5日	第24回石川混成	(石川県西部緑地公園)
▽8月12日	第71回愛知記録会	(ウェーブスタジアム刈谷)
▽8月18日	第35回神奈川	(大和市営大和スポーツセンター)
▽8月19日	第31回埼玉	(熊谷スポーツ文化公園)
▽9月9日	第20回みえスポーツフェスティバル大会	(三重交通Gスポーツの社)
▽10月14日	第16回大分記録会	(日田市)
▽10月21日	第34回静岡	(静岡県草薙総合運動場)
▽10月21日	第5回徳島秋季記録会	(鳴門の大塚)



▲三段跳元世界記録保持者の小掛さん、1980年当時で47歳だった



▲1980年の全日本中高年齢者陸上より。3A(60～64歳)400m決勝で左端は優勝した渡邊さん(和歌山・当時63歳)